

## マルクス捕物帖 (1946)

A NIGHT IN CASABLANCA

メディア 映画  
ジャンル コメディ  
製作国 アメリカ  
色彩 B&W  
時間 85分  
初公開日 1948/10/05  
公開情報 セントラル

## 【解説】

大ヒットした「カサブランカ」にあやかった題名及び内容がワーナー社の機嫌を損ね、危うく法廷係争になりかけたという、マルクス兄弟の12作目。MGMを追われ、戦後となり、いよいよ尾羽うち枯らした印象が強いのだが、冒頭、職務質問を受けるハーポが“建物を支えてでもいるのか”と問う警官に頷いて、寄りかかっていた建物から身を離すと、巨大なビルが一気に瓦解するギャグは伝説になっている。これを考えたのは、後の監督フランク・タシュリンで、彼は兄弟の最後の作品「ラヴ・ハッピー」には脚本家として参加している。カサブランカのホテルで次々に支配人が殺され、使用人チコの旧友グルーチョが後任に雇われ、事件の背後にあるナチ残党の陰謀を偶然に阻止するお話で、しょっぱなのギャグの他はあまり笑えず、チコとハーポが盛況のレストランに客を詰め込むだけ詰め込む場面が、有名な「オペラは踊る」の船室内の寿司詰めギャグを彷彿とさせ、おかしいくらい。他はごくお約束な笑いがまんべんなく散らしてある。

## 【クレジット】

監督	アーチャー・L・メイヨ	Archie L. Mayo	
製作	デヴィッド・L・ロウ	David L. Loew	
脚本	ジョセフ・フィールズ	Joseph Fields	
	ローランド・キビー	Roland Kibbee	
撮影	ジェームズ・ヴァン・ツリーズ	James Van Trees	
編集	グレッグ・C・タラス	Gregg C. Tallas	
音楽	ウェルナー・ジャンセン	Werner Janssen	
出演	グルーチョ・マルクス	Groucho Marx	コーンブロウ
	ハーポ・マルクス	Harpo Marx	ラスティ
	チコ・マルクス	Chico Marx	コルバッチオ
	リゼッテ・ヴィリア	Lisette Vereaa	ピア
	チャールズ・ドレイク	Charles Drake	ピエール
	ロイス・コリア	Lois Collier	アネット
	シグ・ルーマン	Sig Ruman	
	ルイス・L・ラッセル	Lewis L. Russell	
	ダン・セイモア	Dan Seymour	
	デヴィッド・ホフマン	David Hoffman	
	ポール・ハーヴェイ	Paul Harvey	
	ルース・ローマン	Ruth Roman	(クレジットなし)